

3 生活交通を取り巻く課題の整理

中井町の公共交通に関する現況や上位計画における公共交通の位置付け及び地域公共交通アンケート調査結果（町民アンケート、企業アンケート）などを踏まえ、生活交通を取り巻く課題を整理する。

①公共交通空白地域の解消による町民の足の確保

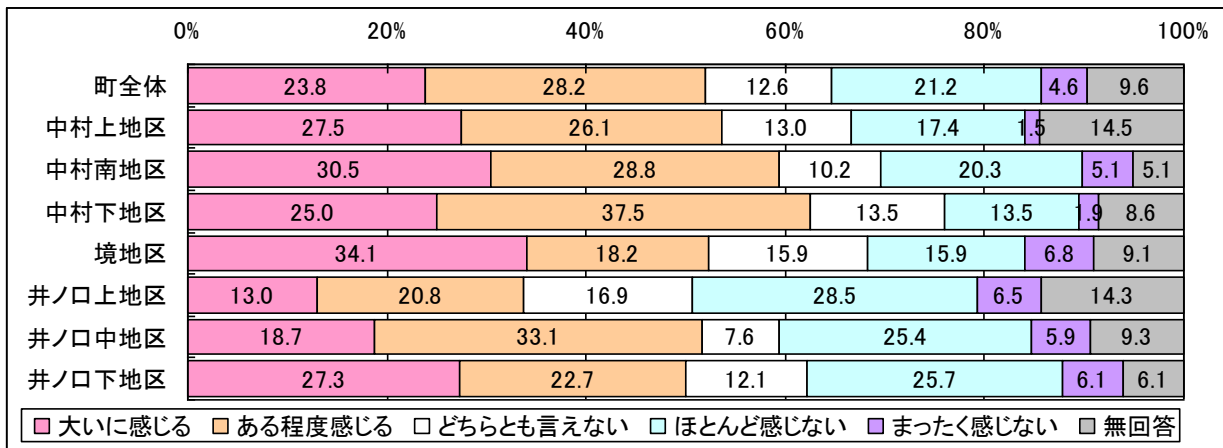
中井町は鉄道がなく、民間バス路線が幹線道路を中心に運行しているが、中村地区を中心に公共交通空白地域（バス停より半径 300m 以遠のエリア）が広く存在している。

町民アンケート調査によると、日常の生活交通における不便さの程度では、「大いに感じる」「ある程度感じる」と不便を感じている方が、中村上地区（53.6%）、中村南地区（59.3%）、中村下地区（62.5%）及び境地区（52.3%）で町全体（52.0%）を上回っている。

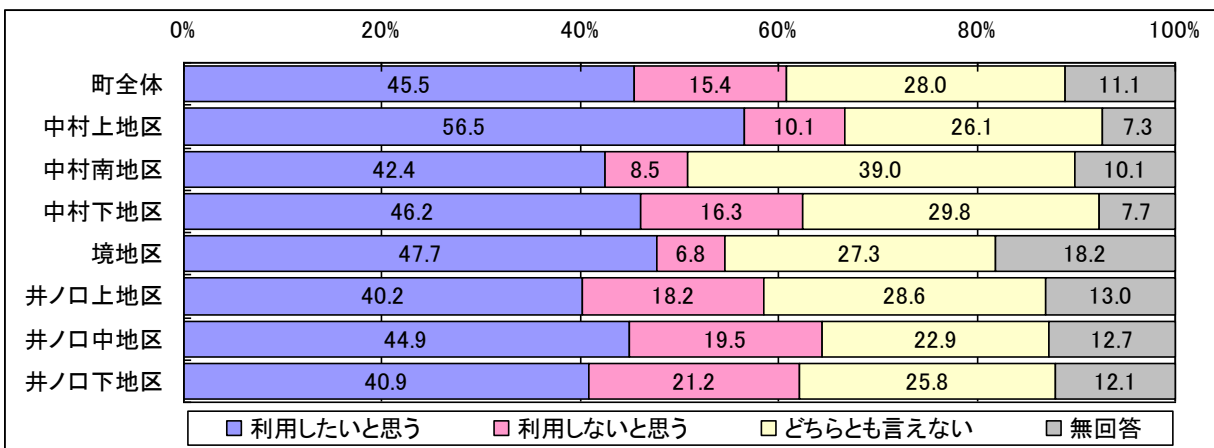
また、デマンド型交通が導入された場合の利用意向をみると、町全体では「利用したいと思う」と回答した方（45.5%）が「利用しないと思う」と回答した方（15.4%）を大きく上回り、特に中村上地区、境地区及び中村下地区で利用意向が多くなっている。

このため、これら公共交通空白地域を主対象に、デマンド型交通など新たな交通システムの導入により地域住民の生活交通を確保していくことが必要である。

■日常の生活交通における不便さの程度（町民アンケート）



■デマンド型交通が導入された場合の利用意向（町民アンケート）



②民間バス路線の維持と利便性の向上

民間バス路線は、最寄りの鉄道駅である JR 東海道線二宮駅と小田急線秦野駅などを連絡しているものの、近年、利用者数は年々減少傾向にあり、町西部（中村地区）を運行する路線（二宮駅～高尾など）で運行本数が少なくなっている。

町民アンケート調査によると、路線バスは買物、通院、通勤など多様な目的で利用されており、路線バスを利用する理由では「他に交通手段がない（42.0%）」、「自家用車が利用できない（30.7%）」といった回答が多く、路線バスは町民生活を送る上で欠かせない交通手段である。

路線バスの運行サービスに対する満足度は、特に運行本数での「不満」「やや不満」が 60.8%、運行時間帯では 57.6%と不満度が高く、また、路線バスが利用しやすくなるために必要な施策でも両施策が上位に挙がっている。第五次中井町総合計画後期基本計画策定に向けた就業者アンケート調査（平成 21 年 9 月）によると、町が行う支援策として重要と思うことについては、「公共交通機関の充実」が圧倒的に多くなっている。

さらに、路線バスをほとんど利用しない方を対象にした町民アンケートの質問では、バスが今よりも便利になった場合、利用すると回答した人も多く、就業者アンケート調査でも通勤時の利用交通手段は、自家用車が 74.8%と大半を占めているものの、公共交通が充実して通勤に利用することができるようになった場合、約 4 人に 1 人が「変更してもよい」と回答していることから潜在的な利用ニーズが高い。

このため、路線バスの維持と利便性の向上に向けて、これら町民ニーズ、就業者ニーズ等を踏まえつつ、路線の見直しやサービス向上をバス事業者に働きかけていくことが必要である。

③路線バスや新たな交通システムとの連携による隣接市町との連携強化

買い物や通院など町民の主な日常生活圏は、町内に駅や日常生活に必要な施設（商店、医療施設など）が少ないため、秦野市や二宮町など隣接する市町への移動が多くなっている。

町民アンケート調査結果によると、外出先は町内が 14.1%で、秦野市、二宮町、小田原市など町外への移動が 83.4%と大半を占めている。

このため、町民生活を支え利便性の高い公共交通ネットワークを構築するためには、町内だけでなく、町域を跨ぐ広域的な公共交通に取り組むことが重要で、路線バス同士の接続や路線バスと新たな交通システムと連携を図りながら検討することが必要である。

④企業と連携した企業送迎バスの有効活用

中井町内の企業を対象とした事業者アンケート調査（配布：15 事業所）によると、回答があった 11 事業者のうち 6 事業者で従業員用送迎バスを運行している。運行理由としては「路線バスのダイヤが通勤時間帯にない（少ない）」から」と回答された事業者が多くなっている。

また、今後の従業員の通勤のあり方としては、「複数の企業が協力して共同で運行することが望ましい」と回答された事業者が 11 事業者のうち 9 事業者あり、さらに、「路線バス等の公共交通が充実し、従業員用送迎バスを運行しなくても通勤できるようになることが望ましい」と回答された事業者が 11 事業者のうち 7 事業者と多く、企業送迎バスの効率的な運用や公共交通の充実が求められている。

このため、企業送迎バスの共同運行や企業等と連携した地域住民の足の確保（混乗化）など企業送迎バスの有効活用について検討することが必要である。

■従業員用送迎バスの運行状況

	料金・台数	運行理由※	運行方法	運行時間帯	送迎区間
富士ゼロックス(株)	無料	①・③・④	バス車両、 運転手とも外注(運 行委託)し ている	7:30~21:30	・秦野駅~事業所間 ・二宮駅~事業所間
日立コンピュータ機 器(株)	無料 複数台	①・②・③・⑤		出勤時間・退勤時 間・日中1本/時	・秦野駅~事業所間 ・二宮駅~事業所間
(株)日立ハイテクノ ロジーズ	無料	①・③・④・⑤		7:35~22:55	・秦野駅~事業所間 ・二宮駅~事業所間
(株)日立情報システム ズ(現在:日立システムズ)	無料	①・②・③		7:35~23:00	・秦野駅~事業所間 ・二宮駅~事業所間
ピースハウス病院	無料 2台	①・⑥(徒歩だ と危険なため)	自社で、バ ス車両・運 転手とも 確保し運 行してい る	7:40~20:10 17:30~20:00	・秦野駅~事業所間 ・二宮駅~事業所間 ・井ノ口小学校~事 業所間
レインボーカントリー 倶楽部	無料 2台	⑥(お客様用送 迎車両に同乗)		7:10~8:45 14:55~18:00	・秦野駅~事業所間 ・二宮駅~事業所間

※①路線バスのダイヤが通勤時間帯にない（少ない）から

②路線バスではピーク時の従業員利用に対応できないから

③路線バスよりも駅などからの所要時間を短縮できるから

④自社で運行したほうが従業員の移動にあわせて弾力的に運行できるから

⑤従業員の就労条件向上のため

⑥その他（)



▲レインボーカントリー倶楽部送迎バス



▲日立情報システムズ(現在:日立システムズ)送迎バス